



心を磨き、教を守り ひながたを辿ろう

5月大教会教会長会議

立教183年5月22日

大教会長 片山幹太

本島通信

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
電話 0877-27-3321 (代)
本島通信編集室 R.200524-0526-13
奈良県天理市指柳町270-1
本島詰所 〒632-0093
電話 0743-63-1571 (呼)

https://www.honjima.com
Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間
【6月1日～8月31日】
朝づとめ 午前6時00分
夕づとめ 午後7時00分

そのお言葉の中で、二つの言葉がキーワードとして私の心に強く入ってきました。
一つは「基本」、もう一つは「惰性」です。
私たちは惰性に流されていないか、これまでの形にとらわれて、本来の主旨や目的が見失われていないか。そこに惰性があるのではないかと受け止めてさせて頂きました。

今月も新型コロナウイルスの感染拡大が収束していない状況のため、大教会の祭典に帰る思いがあっても帰ってくることに出来ない方が大勢いらっしゃいました。そのような月次祭となりました。誠にありがとうございました。
今年の1月4日、本部の年頭のごあいさつにおいて、真柱様より2年ぶりに直接お声を聞かせて頂くことが出来ました。

しかしながら、その中でも御本部では窓口が開いているところがあります。それは「をびや許し」「証拠守り」の下附、そして「別席」です。さらに有難いことに、おさづけの理の拝戴も順番待ちではありませんが、一日の拝戴者の人数を増やして下さっています。
また、朝夕のおつとめも、私たちは参拝させて頂くことができます。
をびや許しは、教祖のよろづたすけの道明けとなった安産のお許しです。

現在、本部神殿では、感染防止の上から、日中は南礼拝場のみ昇殿参拝が許されています。朝夕のおつとめの時間だけすべての礼拝場が開けられます。
またこの2ヶ月間、修養科、教人資格講習、教会長資格検定講習、三日講習などの受入中止を始め、立教183年ごどもおちばがえり、学生生徒修養会高校の部、さらに様々な行事が中止となりました。

どんなことでもいいですから、自分にできることで優しい心を養い、勇み心を育んで、神様にしっかりとすがりついていけば、この大節にあっても、何も心配いらなと思います。
新型コロナウイルスの大節に思うこと みちのとも 内統領インタビューより

というおうたがあります。
「たずねくる」とはおちばを訪ねることなのですが、おてふりでは何故か自分の胸を指差す手となっています。これは私の悟りなのですが、世界の人々とおちば(親神様)の間に立つ立場が、私たちようぼくなのではないでしょうか。その勤めを果たすには、まず我々がしっかりとおちばに心を繋ぎ、世界に心を配っていくことが大切です。
2代真柱様が「天理教とはどのよう

そして証拠守りは「心の守りが身の守り」と教えられますように、教の理を心に治めて通るためのものです。
ようぼくの使命は、つとめとさづけです。おさづけは現在、取り次ぎにくいところがあるかも知れませんが、おつとめは真剣に勤めさせて頂くことができます。
よろづよ八首に
きゝたくバたづねくるならいうてきかす

な教えですか」と尋ねられたら「私を見て下さい」と言えるようなようほく、成人させて頂くとうと仰せられたと聞かせて頂きます。

おちばと、世界の人びとを繋ぐパイプ役となるよう、しっかりと自分自身の心を磨き、教を守り、ひながたをたどる道を通らせて頂きましょう。

をびや許し、証拠守り、朝夕のおつとめ、別席、おさづけの理。お道のおたすけの原点はこれらにあるのではないでしょうか。

そこに至るまでに、様々な会活動や講習会があります。人様の心がたすかる場所に目的があるのが、いつの間にか行事そのものが目的になってしまっているとしたら、申し訳ないことだと思えます。またこのたびの大節は、おたすけについて大切な点を親神様がご指摘下さっているようにも思われます。

ところで会議項目にもありますが、大教会の「屋釜キャンプ場イノシシ被害について」です。

香川県ではイノシシが街中や住宅地に現れるようになり、香川県みどり保全課より注意が喚起されています。

実は離島である本島にもイノシシが

繁殖するようになり、その数も年毎に増えているのです。

そして屋釜キャンプ場には、イノシシの足跡や、穴を掘った形跡がたくさんあるほか、大教会の山のソーラーが設置されている周辺にもイノシシの痕跡がたくさんあったり、目撃情報も寄せられていますので、私たちにかなり近づいているようです。

イノシシは臆病なので、ほとんどの場合はそのまま逃げて行きますから、日中はあまり心配することはないのですが、夜遅くなつてから活動しますので、お腹がすいたら匂いのするところに寄ってくるかもしれない。どうかご注意を願います。

尚、今夏の屋釜キャンプ場は使用中止といたします。よろしくお願ひします。
(文責・本島通信編集室)

イノシシへの正しい対処法

香川県みどり保全課資料より



1. イノシシに出会わないためには？

■ イノシシの方から逃げてもらいましょう！

イノシシは、本来おくびょうな動物です。人の話す声や物音を聞くと、ほとんどの場合、自分から逃げていきます。クマよけの鈴をつけたり、できるだけ大勢で話をしながら歩く(集団登下校)ことが有効です。

2. イノシシに出合ったら？

■ イノシシの視線から隠れましょう！

背を向けず、ゆっくりと、電柱や街路樹、塀などのかげに隠れましょう。傘があれば、傘を広げて隠れましょう。広げた傘は動かさず、座って体が見えないように隠れましょう。何人か集まって、傘で亀の甲羅のように壁を作るのも効果的です

■ できるだけ高いところ、上に逃げましょう！

イノシシは、高くジャンプしてまでおそってくることは、ほとんどありません。塀の上や植え込みなど、イノシシより少しでも高いところに逃げましょう。

3. 本当におそれそうになったら？

■ 急所を守りましょう！

イノシシは、人の急所、特に太ももの内側を狙ってきます。体をかがめ、足を閉じて急所(太ももの内側)を守る防御の姿勢を取りましょう。

■ 反撃はやめましょう！

反撃する限り、いつまでも攻撃してきます。攻撃はせず、急所を守ってください。

4. 住宅地に近づけないためには？

■ ヤブや草むらをなくしましょう！

イノシシは、草むらやヤブの中に隠れています。きちんと草刈りをして、見通しをよくしておけば、突然出合うことは、まずありません。

■ えさ場をなくしましょう！

ごみ置き場や家庭菜園がイノシシのえさ場になります。ごみは夜に出さないこと、家庭菜園はしっかりと柵で囲むなど、地域全体でイノシシを寄せ付けない環境づくりをしましょう。

寄稿

学生層育成者講習会に代えて

本島学生担当委員長 池田さわみ



日々は学生層育成の上にご丹精下さりありがとうございます。

今年はコロナウイルス感染症のため、3月からの学生会行事が中止になり、各々の地で繋がりを持って下さっていることと存じます。また、経験したことのない状況でも、学生同士は携帯電話のツール等を使って連絡を取り合っていると思います。

こうした中、大教会成人目標の一つであります「道の将来を担う人材の育成」について改めて考えさせて頂いております。

今までは、おちば、大教会の大きな親心でお育て頂き、私達は学生を送り出すことに心をかけてはいましたが、安心して居る部分もあつたように思います。しかしそうしたことが困難な中では、信仰家庭、その家庭に繋がる教会、教会に所属するよ、ふ、ぼ、くの皆様が今まで以上に我がことと受け止め、会

長様を中心に真剣に取り組むことが大切と親神様からメッセージを頂いているように思います。

学生担当委員会発足30年記念学生担当大会で前真柱様は

「人を育てるには、育てる側の強い意志がなければなりません。そして何よりも育てる者の心の置き所が問われます。どのような人に育てたいのか、何を伝えたいのか、あやふやなことでは、育てられる側も困惑するのであります。まず、育てる立場の者が、教祖の親心に近づかせて頂かなければならないのであります。育てる者が育つことによって、初めて人を育てられるのであります。道に外れた人間思案で考えても人は育てられないと仰せ下さっているのであります。」

とお話し下さいました。育てる者が育つ努力をすること、また、少しでも親心に近づき成人させて頂けているだろうかと日々を振り返ることで、揺るぎのない信仰信念を培い、学生に向き合えるよう歩みたいと思っております。

さて、4年前の教祖130年祭の3月28

日「春の学生おちばがえり大会」が開催されました。大会に向けて本島学生会は100名参加を目標に委員長、委員、おちばで準備にあたる学生たちが詰所に集まって活発に活動していました。私達担当委員も学生の教会回りに帯同し、月次祭に合わせて教会長様、信者さん方に身近な学生さんへの声掛けのお願いをしていました。帰りの新幹線で役員婦人の娘さんから、お母さんが倒れICUに入っていますと電話があり、大変なことだという思いと、この時期に春学の行事に動けるのかしらという思いが交錯し、人間思案いっぱいでしたが、次の日の朝、お願、つ、とめをさせて頂き、病院におさづけに通わせていただきました。

病院の先生は、もしたすかっても寝たきりで意識が戻らない確率が高いと悲観的な言葉を出されます。娘さんは今までのことを思い、せめて「ありがとう」とお礼の言葉を伝えたいと涙ぐみます。何とか意識が戻ってほしいと毎日おたすけに通わせて頂きました。数週間後、先生は信じられないと言われましたが、親神様のお働きを頂き、意識が戻り、徐々に回復し、今では大病したと思われないほど元気にしてお

られます。

退院された後のご婦人は、「無い命をたすけて頂いた私は、子供、孫、ひ孫たちをおちばに連れ帰り、信仰の喜び、ありがたさを伝え育てることが御用です」と、93歳になられた今も親神様、教祖へのご恩報を念じて過ごされています。

二つの大きな事情が立てあい、親神様からおた、め、しを見せて頂き、私は出来ないと手離すことは簡単だけれども、どちらも一生懸命努めることで、御守護の世界をお見せ頂ける喜びを経験させて頂きました。

お陰様で、春の学生おちばがえり大会は全国から大勢お帰り頂き、委員長を始めスタッフは何にも代えがたい宝を頂戴したと思います。また、この行事に関わる全ての人の一手一つの心が成果として現れてきたと思わせて頂きます。

現在こういう状況でも何かできることを考え実行し、学生が将来陽気ぐらしのできるよう、陽気ぐらしを伝え広めていくよう、ぼ、くに育つよう、本島に繋がる私達みんなで心を懸けさせて頂きましょう。今後ともよろしくお願い申し上げます。

寄稿

少年会縦の伝道講習会に代えて

少年会本島団長 岩橋竜造



皆様方には常日頃より少年会活動の上にご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。新型コロナウイルスの影響で、3月22日に開催を予定しておりました「縦の伝道講習会」が中止となったことから、この紙面をお借りして縦の伝道、少年会活動についてのご紹介とお願いをさせて頂きま

す。「親の喜びを子供に伝える。そのためににはどれだけの骨折りをして来たか。私はそれを思案してみます時に、私達の骨折りはまだまだ不十分であつたと考えるのであります。食うに困るとか、その他の理由のもとに子供に対する育て方というものは案外放擲ほうてきされておつたのが、今までの私達の有様ではなかつたでしょうか。これは私達のさんげする筋であると思ひます。即ち、横の布教の忙しさにまぎれて、縦の伝道を怠つておつ

たということになるのであります。これは親から子へ、子から孫へと伝わる血の流れのように、親の喜びは子供の喜びであり、子供の喜びは孫の喜びであるというように、この道が続いておつてこそ道と言えると申したいのであります。」(二代真柱様 昭和42年1月5日 年頭会議におけるお言葉)

天理教少年会は、二代真柱様の大きな親心によって、少年会員が教えを学び、ひのきしんに励み、互いにたすけあつて、ご存命の教祖にお喜びいただける人材となれるよう、育成することを目指す。教祖80年祭が執行された。以来、半世紀にわたつて親から子へ、子から孫へと、信仰を次代につないでいく「縦の伝道」のために、おちばで、またそれぞれの教会、地域において様々な活動が行われています。おちばでは毎年、子供たちの真夏の祭典「こどもおちばがえり」が7月26日より開催されます。親神様、教祖がお待ちくださるおちばに、大勢の少年会員が帰り集い、おちばでしか味わえな

い心のふれあいの中で、かけがえのない経験をし、教えを学びます。「こどもおちばがえり」は、日頃一生懸命に練習を重ねてきた鼓笛隊、また「人のためにつくすよろこびひろげよう」を合言葉に、地域活動を行っている少年ひのきしん隊、そして、それぞれの教会における隊活動(教会おとまり会や教会こども会など)の集大成でもあります。

少年会本部から隊での常時活動として特に提唱されているのが「教会おとまり会・教会こども会の実施」です。

少年会員が信仰の拠り所である教会に出入りして、会長さんやご家族と寝食を共にし、神様のお話を聞いたり、楽しいひと時を過ごすことによつて、教会に親しみをもち、教会を身近に感じ、教会とのつながりを育んでいきます。

本島団では、毎年8月に「おつとめ総会と夏のつどい」を開催しています。お道を信仰する私たちにとって最も大切なおつとめの習得は、少年会活動においても活動の中心であります。各隊におけるおてふりや鳴物の練習の成果を、大教会の神殿で一手ひとつとなつて親神様、教祖にご覧いただき、お喜びいただけるようつとめさせて頂きま

す。

夏のつどいでは屋釜キャンプ場に宿泊し、海濱行事をはじめとした野外活動を通して、本島につながる少年会員の親睦を計っております。また鼓笛活動として、本島団鼓笛隊の春季合宿、夏季合宿、冬季合宿を開催し、夏には「こどもおちばがえり」に参加しています。お道の鼓笛隊では横笛(ファイフ)が使われていますが、それはおつとめの篠笛や雅楽の龍笛の習得につながるの考えがあつたからです。その他の楽器の練習も、おつとめを一手ひとつにつとめるためのリズム感や協調性を養うために大変役立ちます。また、大教会で団体生活を送ることによつて、大教会の一員としての自覚を高め、将来につながる絆を育みます。

今年も新型コロナウイルスのため「こどもおちばがえり」も本島団の行事も残念ながら中止となってしまいました。が、今後も各教会での隊活動に力を注いで頂くとともに、「こどもおちばがえり」、また本島団の行事への積極的な参加をよろしく願ひいたします。今年1月27日、天理教少年会立教183年年頭幹部会がおちばで開催されましたが、その中で内統領の宮森与一郎先生は、

本篠分教会3代会長就任奉告祭



本篠分教会ほんしの(寺本邦一会長、神戸市灘区)では、3月26日のお運びで寺本邦一氏の教会長任命の理のお許しを頂いておりましたが、去る5月18日午前11時より、大教会長夫妻(随行・老木邦光役員)を迎え、3代会長就任奉告祭を執り行いました。参拝者20余名。



挨拶に立った大教会長はまず、新会長は長年、大教会祭典や育成行事の裏方として勤めてきた上に、これからは教会長として表舞台でも一層御用を勤める立場が与えられたことに期待を込めた上で、次のように述べられました。
「教祖は何か大きなお仕込みを下さるとき、まず身近なご家族に身上の印を見せて、その節を台としてお教え下さいました。」

これは私の悟りですが、このたびのコロナウイルス事情は、まず以前に真柱様のお身体にご身上を見せられ、自由に動けない厳しさを示された上で、感染防止のために世界中で外出自粛が要請されました。私達はこの事情が真柱様を忝に、我がこととして重く受け止め、親の思いに近づかせて頂くためのふしであると思えます。

そして本篠分教会初代会長酒井タメ先生の信仰は、親神様・教祖をお慕いし、御恩報じに歩まれた情熱にありました。御守護を戴くためには何が必要か、その裏付けが大切で、願い通りではなく心通りの守護であり、そのためにはどれだけ神様を信じ切れるか、尽くせるか、運べるか、見えないところ

『明治33年1月16日の「おさしづ」に、もう道というは、小さい時から心写さにやならん。とあります。この「おさしづ」でお示しくださるように、親の信仰を子供に伝え、次代を担う人材を育成するために発足されたのが、天理教少年会であります。しかし、少年会という組織が結成されて初めて、横の布教に対して縦の伝道の重要性が意識され始めたわけでは

の御用が出来るかが御守護の元になるということです。

新会長には、御守護の裏付けができる会長様になって頂けることを楽しみにしています。」と激励され、最後に2代会長として長年おつとめ下された寺本管一郎前会長夫妻にお礼を申し上げました。

寺本邦一氏略歴 昭和35年11月8日生まれ。昭和54年1月9日、おさづけの理拜戴。立教156年6月27日、修養科第62期修了。立教162年2月14日、教会長資格検定講習会前期修了。同年3月1日、教人登録。立教178年12月20日、教会長資格検定合格。立教183年3月26日、本篠分教会3代会長拜命。

ありません。たすけ一条の道の精神を受け継ぐ人材を育成していく姿勢は、教祖がお通りくだされたひながたの道に終始一貫してお残しくだされているのであります。』

とお話しくださいました。縦の伝道とは、教祖のひながたを辿らせて頂く私たちにとって、大変重要な御用のひとつなのだと、強く心に納めさせて頂きました。

立教183年天理教少年会活動方針は「日々に陽気ぐらしを實踐し、その喜びを子供たちに伝えよう」です。

現在、これまでに経験したことのない大変な毎日をお互いに過ごしていますが、親神様がお与えくださった節と受け取らせて頂き、陽気ぐらしの實踐をより念頭において、喜びの心を忘れることなく通らせて頂きたいと思えます。そして、今まで以上に子供たちに感謝と喜びの心を伝えることが出来るよう、今だから出来ること、次に向かっの準備をしっかりと行い、事態が終息した際には、この節があつてよかつたと思えるよう、会活動充実に向けて努めてまいります。

今後とも少年会活動の上に一層のお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

五月月次祭 祭典役割

献饌長 大教会長

伝 供 片山勲・寺本教生・井上哲・岩橋竜造・窪田靖明・篠原丕王・永山晴明・岡崎八十則・吉田知彦・高島栄造・茶屋原良昭・山下英久・上山康雄・川村吉夫・大矢万三・横山富明・真

柴アルベルト・篠原右匡・佐々木徳太郎・片山昇太・長尾直太郎・白垣俊生
 雅楽奉仕者 文岡育則・高垣光治・長尾海和・岩橋守行
 (順不同)

神殿講話	胡三味線 弓線	小琴鼓 ね鼓	すりがね 鼓	太鼓 木	拍子木 ん	ちゃんぼん ん	てをどり	地 方	祭主 大教会長	座りづとめ	指図方 岩橋慶三	扨者 片山勲	をどり前半	をどり後半	
									岩橋慶三	片山勲	寺本教生	岩橋慶三	岡崎八十則		
									扨者	片山勲	賛者	岩橋慶三	吉田知彦		
									寺本教生	片山勲	賛者	岩橋慶三	上田康雄		
なし(大教会長のご挨拶のみ)	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし

五月月次祭祭文

立教百八十三年五月二十二日

この神床にお鎮り下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます。

親神様には、一れつ子供の成人をお待ちかねになる深き親心のまにまに、長の年限、絶え間なきお慈しみと、限りない御守護を賜り、成人への歩み恙なくお導き下され、お連れ通り下さいます御高恩の程は、思えば誠に有難く勿体ない極みでございます。

私共は常にご恩報じを忘れることなく、届かぬながらも思召に添わせて頂けるよう、日夜たすけ一条の御用に努めさせて頂いておりますが、今日の吉日は、当大教会の五月の月次祭を執り行う目出度い日柄を迎えましたので、只今からおつとめ奉仕者一同、心を澄ませ、一手一つに座りづとめ、てをどりを勇んで勤めさせて頂きます。

御前には、新緑の清々しい季節の中に、折からの世界中に蔓延する新型コロナウイルス感染症の困難な状況の続く中、帰り集うことの出来ました教え子達が、日頃賜る厚き御恵みに御礼申し上げ、更には世界の事情の一日も早い治まりを願う真実の状をもご覧下さいまして、親神様に

もお勇み下さいますようお願い申し上げます。

私共一同は、只今の不ふしの中、人間思案を去り、自らの心づかいや日々の暮らし方が教祖の御教えに沿っているかどうかを顧りみつ、ひながたを振り所に心を定め直し、胸から胸へたすけ一条の歩みを進めさせて頂く所存でございます。

何卒、厚き親心にお抱え頂き、真の親心が一日も早く、世界の隅々に往き渡り、互いにたすけ合い、睦び交わす陽気ぐらしの世の状に立ち替わりますよう、お導きの程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

(原文のまま)

入社祭

立教183年5月の入社祭はありませんでした。

5月22日(金)
【香川県丸亀市】

天候 晴一時薄曇
 最低気温 13.3℃
 最高気温 24.2℃
 平均気圧 1013.7 hPa
 平均湿度 74%
 平均風速 2.4 m/s
 日照時間 11.1 時間
 降水量 0.0 mm

事情はいつ

(立教183年5月26日)
本陽泉分教会 四辻朝惠
神殿建築願
臨時祭典願

鎮座祭 立教184年3月6日
奉告祭 立教184年3月7日
以上

おさげの理拝戴

(立教183年4月分)

神峰 黒木直也
栄峰 大矢龍治
タミナル 清水ジェイ道行
【計3名】

おさげお取り次ぎ報告

(立教183年5月22日)
提出教会 6教会
報告数 432回
累計 4,822回
※前年同月累計比 2489回減

大教会長動向

▼6月(予定)▲
3日、香川教区役職者会議
6日〜7日、大松峰分教会
移転鎮座奉告祭
22日、大教会月次祭執行
24日、修養科門出まなび
25日、かなめ会委員会
26日、本部月次祭
27日、かなめ会
以上

ろくち会

(立教183年5月分)
▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△藤山さちよ△片山秀明△長尾真美・幸太△藤山さちよ ▼樺太分教会
▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜△片山清枝・正枝・誠
▼本嶺分教会 ▼崇徳分教会△高垣みなみ・嘉一 ▼ポートランド
△片山和信・陽子・昇慶・竜次
▼カリフォルニア教会 ▼シー
タック教会
ご芳志に厚くお礼申し上げます

片山好造老会长様がお出直しになって5年後の昭和21年、本島通信が手書き謄写印刷で再刊されたとき、老会长の在りし日を偲ぶ「あの日あの時」が連載されました。筆者の向所武一役員は、約30年にわたり老会长様のもとで道を歩まれた先人で、その人となりを身近に見てこられた方です。今一度、初代時代の信仰を振り返りたいと願ひ再掲いたします。文章は現代仮名遣いに一部変更いたしました。

あの日あの時 親に孝行のお話

「親孝行は月日への孝行と受け取る」というお言葉がある。
だいたい人はすぐ肉親の親に対する孝行と解釈するが、実は自己の魂を生み変えてくれた理の親に対する孝行のことである。肉親の親に孝行したいと思う時、孝行の出来る人は因縁の良い幸福な人である。
しかるに、この親孝行はしやすいようでも、なかなか難しい。「子養わんと欲すれど親待たず」で、親の在る間は孝行しようにも孝行が思うように出来ず、いろいろ苦勞の末、多少の余裕も出来てこれからと云うところで親はこの世を去って孝行できないのが普通である。
お互いお道を信心せねばならぬような因縁の持ち主は、まず自己の因縁を納消して幸福な因縁に切り替えねばならぬ。
ゆえに理の親に絶対信頼をもって、理を立

て切り、親を突っ張りぬいて、まず理の親に孝行を尽くし切ることが、天の月日に孝行として受け取って頂く理で、すなわち天に通ずる道である。自己の因縁納消によって幸運に恵まれて立身出世をするならば、肉親の親に對しての孝行は容易に出来るのである。まず自分が幸福な運命を天から与えて頂くことが先決である。

私はこの理を悟って常に布教に出るとき、特に朝鮮に渡るとき、船中で神様に祈念を捧げて渡ったものである。
「神様、私には老母があります。私は何時如何なる布教先で殉教するか、それは覚悟の上で神様の道を懸命にお手伝いさせて頂きますから、何卒布教をおえて帰国するまでは老母の生命をお伸ばし下さるようご無理な願いではございませんが何卒私の微哀をお汲み取り下さいませ」とお願いしたものであった。
幸い、神様にお受け取り頂いたものか、巡教中、渡鮮一步手前で老母の身上の通知によつて本島に引き返し、朝夕看病させて貰い、一週間ばかり後、安心のなか神様がお引き取りくださった。
かような訳で、理の親に懸命に孝行をつくしておけば、肉親に對する孝行は自然に恵まれて出来るのである。理を立てずに身の立つ道理はない。信仰も親孝行から生まれる信仰が何より美しいのである。
(本島通信第82号・昭和21年7月20日発行)



行事中止のお知らせ

【少年会本島団】

立教183年子どもおぢばがえり中止、ならびに小中学校の夏休み短縮等により、今夏計画しておりました下記記事を中止させていただきます。何卒ご理解くださるようお願いいたします。

- ◇本島団鼓笛隊夏季合宿
- ◇本島団おつとめ総会と夏のつどい

片山好造会長様史料のお願い

【本島通信編集室】

教会に片山好造2代会長様(1869-1942)に関する史料がございましたら、ぜひお知らせください。

ご揮毫の書、自筆の手紙、写真、教会巡教の記録、遺品など

2年後に迎える創立120周年記念祭を目指して、部内教会にどのような史料が残っているのか目録を作成したいと計画しております。

ご連絡は本島通信編集室(向所隆文)まで

統計 (4月1日~30日)

教会名	初席	中席	妻の座	修料	教人講習	検定講習
本千代	1					
神峰			1			
栄峰			1			
タミナル			1			
合計	1	0	3	0	0	0

にをいがけ名簿提出教会 (5月)

本島	0	本承德	1	本宣道	1
本京	8	本山海	1	赤峰	20
本静森	3	本府中	2	倉峰	7
琴浦	2	崇徳	6	吉松峰	7
計 12 教会		58 名			

事務所移転のお知らせ

【本島大教会】

大松峰分教会は5月24日に下記へ事務所移転いたしましたのでお知らせします。

記

天理教大松峰分教会 松下一司

住所：〒870-0133

大分市葛木325番地の1

電話：097-535-7571

Fax：097-535-7627

<https://www.honjima.com/>

本島大教会ウェブサイト

6月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈本部食堂ひのきしん〉

●期間：6月16日～30日

●派遣教会：本京①

〈大教会・炊事ひのきしん〉

●期間：6月21日～22日

●派遣教会：本浜②、与島①

〈話所・食堂ひのきしん〉

●期間：6月25日～26日

●派遣教会：同朋①、仁徳①、張家口①

大教会祭典ライブ中継について

【本島通信編集室】

本島大教会6月月次祭と教会長会議を、希望する皆さまへインターネットによるライブ中継を行います。下記要項にしたがってお申し込みください。

●対象：大教会月次祭へ帰参できないため、ライブ中継視聴を希望する方

●申込方法：

メールで、live@honjima.com に「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください(6月21日締切)。当日朝までにライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。

●ライブ配信時間：

◇6月月次祭：6月22日午前8時55分より祭典終了まで

◇教会長会議：6月22日午後1時55分より会議終了まで

◇お手持ちのパソコンまたはスマートフォンで視聴できます



●ご注意：

◇携帯電話(スマートフォン)からお申し込みの場合、パソコンからのメールが受信できるように設定をご確認ください。

◇このライブ中継は、事前にお申し込み頂いた方のみ限定公開となります。ライブのアドレスはSNSなどインターネット上に公開しないでください。

◇当日の大教会インターネット通信環境によっては、ご視聴頂けない場合もありますので、ご容赦ください。

◇パソコンやスマートフォンの使い方など、技術的なお問合せにはお答えしかねます。



QRコードを読み取り、お申し込み頂けます。「ライブ希望」「教会名・氏名」お知らせ下さい。

live@honjima.com



本島の福田より広島・手島方面の夕景です(5/21撮影)